

低空飛行問題で政府交渉 防衛省を動かす運動へ

22日には広島防衛局へ。原発問題で中電交渉も



10月8日、中国ブロック・四国ブロックの各県代表が米軍機の低空飛行問題で政府交渉を行いました。大平喜信衆議院議員、仁比聡平参議院議員、春名直章参院比例候補が同席しました。参院選挙区候補の松田一志氏（山口県）、遠藤秀和氏（鳥取・島根合区）が被害の実態を訴え、防衛省に「低空飛行の中止」「日米合意の遵守」を迫りました。（写真）

低空飛行問題は、島根県浜田市と広島県北広島町に防衛局の騒音測定器を設置させたり、防衛局長自身が初めて浜田市で開催された自治体との意見交換会に出席するなど、自治体ぐるみの運動や党議員の奮闘で、防衛省を動かす運動に発展しています。

中国ブロックでは、さらに22日に広島にある防衛局に向いて交渉する予定で、住民運動で防衛省を動かす運動に発展させようと考えています。なお、22日には原発問題で中電本社にも出向く予定です。

国民連合政府の提言をもって懇談、署名活動を

広島では大平議員が出席して「国政懇談会」を開く

広島県委員会は9日、大平喜信衆議院議員を囲んで国政懇談会を開催しました。

大平議員は、初めての通常国会の様子、とりわけ「戦争法を巡る論戦、国民的な運動の盛り上がり、野党共闘の発展」などを生々しく報告し、「四中総が提起した戦争法廃止、国民連合政府の樹立を」と訴えました。

各団体からは、切実な要求と運動が報告されるとともに、「連合政府の提案」への共感の声が寄せられました。



大平喜信衆議院議員のホームページに、「大平喜信ビデオ通信」が掲載されています。

昨年末の総選挙での活動、初当選のシーン、初質問、憲法調査会での発言など36号までアップされています。ぜひご覧ください。また「つどい」などでの活用をお願いします